

経営体育成支援事業等を活用した事例
(H22強い農業づくり交付金及びH23経営体育成支援事業)

補助対象者名称：株式会社 サニープレイスファーム
事業実施主体名称：大分県佐伯市
内容：トマト養液栽培施設、集出荷貯蔵施設等
事業費：516,973千円（国費：246,177千円）

1 事業取組前の状況

(1) 補助対象者の経営状況

株式会社サニープレイスファームは、大分県佐伯市女島地区においてトマトの養液栽培に取り組む農業法人である。

同社の設立に取り組んだ株式会社上組は、「常に時代の風を読み、変化する社会の要請に即応しながら、一歩先のテーマに取組み、企業価値の向上と経営の安定に努め、ひいては豊かな社会の実現に貢献する」との企業理念の下、地域に貢献するための様々な事業活動に取り組んでおり、(株)サニープレイスファームは、この一環として、株式会社上組の子会社である大分港運株式会社を核に設立された。

(2) その他

大分県は、県内外の他産業の企業や県外の企業的経営体の誘致を積極的に推進しており、企業参入は平成25年度末で176社となっている。参入相談から営農開始後の技術指導、販路の確保まで一貫したサポートを行うため、関係部局が連携した支援体制を整備している。

2 取組の概要

株式会社サニープレイスファームは、農業参入に当たって、元々農業者ではないことから、地域の多くの農業者とは違う土俵で取り組みたいとの意向から、一般的な土を使った農業ではなく、トマトの養液

栽培に取り組むことを決定した。

また、養液栽培施設の整備に当たっては、県や市から農業参入のサポートを受ける中で補助事業の活用が可能であるとの紹介を受けたことから強い農業づくり交付金及び経営体育成支援事業に取り組むこととし、平成22～23年度に合計約2haの養液栽培施設と集出荷貯蔵施設を整備した。



【施設全景】

養液型トマト栽培施設 2棟	19,304.75㎡
トマト集出荷調整施設	182.9㎡

3 経営改善の効果

株式会社サニープレイスファームでは、事業で整備した栽培施設において、大分県農林水産研究センターの生産技術を活用した、「トマトの低段密植栽培方式による糖度の高い美味しいトマト」の生産に取り組んでいる。養液中に塩分を加えストレスを与えることにより、糖度を上げた高糖度トマトは「塩熟トマト 朱々」として商標登録し、関東、中部、関西及び福岡のデパート等に直接出荷している。養液栽培施設による質の高いトマトの生産及び高付加価値商品の独自ルートでの販売が経営の安定化に結びついている。

4 成功の要因

参入に当たっては、ほ場選定や農地の借り受け、農業生産法人の設立に向けた過程において県や市からの積極的な支援等があったことが、円滑に農業経営の開始に至ることができた要因としている。また、大規模な養液栽培施設は設備投資が大きく、経営的に成り立っているのは補助事業による設備投資への支援があればこそであり、さらには、県や市からの技術指導のほか、地域の生産農家での研修によって生産技術の習得ができたためであり、行政をはじめ地域の生産者の協力が得られたことが現在の経営が確立できた理由としている。

<その他の波及効果>

トマトの生産、出荷調整には常時雇用19名のほか、繁忙期の臨時雇用(252日人/年)や梱包箱折を障害者施設に委託するなど、地域の雇用の創出に大きな役割を担っている。

5 今後の経営改善の方向

収穫量が夏場に減少傾向にあるため、今後も栽培技術の改善に取り組み、収量の増加と品質の向上を図る。また、地域とも連携することで、将来的には佐伯ブランドの確立を目標としており、養液栽培事業により得られた栽培技術や農業経営技術は地域に還元し、地域農業の活性化、就農者の育成など、地域社会へ貢献したい。



【施設内部】



【稲田社長（右）と松岡部長】